

実践に役立つ教育資料

—最近の研究紀要・資料から—

教育センターで受け入れた研究紀要や教育資料から、教育研究や教育実践に役立つ資料をいくつか紹介します。

確かな授業をつくる授業マネジメントの在り方

北九州市教育センター 研究紀要(2007年3月)

一単元（主題、題材）の実践で終わることの多かった今までの研究の進め方を見直し、年間を通した授業マネジメントという発想による複数単元（主題、題材）の授業研究に取り組んだ実践を紹介しています。目指す児童生徒の姿を授業マネジメント表に示し、授業改善の視点となるべき「中核となる手だて」を位置付け、年間の見通しを持って授業実践を重ねています。実践を重ねるごとにその手だてを見直し授業マネジメント表を加筆・修正していきながら、指導方法等の重点化・焦点化を図っています。

児童生徒の食育に関する研究

東京都教職員研修センター紀要 第6号(2007年3月)

学校における食育の位置付けを明確にした上で、小・中・高 12 年間の系統的な指導目標と目標達成のために児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を示してあります。その上で、毎日意図的・計画的・継続的に食に関する指導を繰り返し行うことができる給食の時間及び教科等の時間についての具体的な実践事例が紹介されています。

スポーツを大切に思う子どもを育てる指導を求めて—「総合運動部」の取組を通して—

京都市教育委員会・京都市総合教育センター 研究紀要(2007年3月)

スポーツに親しむ子とそうでない子の二極化問題を解消するために、様々な運動やスポーツを行って、バランスの取れた体の成長を促す「総合運動部」の推進が求められています。本研究では、運動やスポーツが得意な子と苦手意識をもつ子が、同じ活動の場で「人を大切にするスポーツ活動」を経験していく中で、スポーツが自分にとってかけがえのないものであるとするためにはどんな点に留意すればよいのかを明らかにしています。

造形の基礎能力の育成による豊かな絵画表現—人物スケッチの学習を通して—

福井県教育研究所 研究紀要 第 112 号(2007年3月)

小学校において人物のスケッチ学習を継続的に行うことによって造形の基礎能力「ものの見方」「形のとり方」が身に付き、描く力が向上することが実証されています。「人物スケッチの基本」→「人物の全体」→「動作をつけた姿」→「とらえる視点を工夫して」というようなステップを踏んだ実践指導により、児童がうまく描けるようになった満足感並びに更なる人間に対する興味関心と表現意欲を示したと結論付けられています。

児童生徒の学級への適応を促す生徒指導の在り方に関する研究

—1次的アプローチにおける工夫・改善を通して—

広島県教育センター 研究紀要 34 集(2007年3月)

「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U」検査事前事後の分析から、通常の教育活動の中で、児童生徒のコミュニケーション量と質の拡充を図ることにより、児童生徒の学級への適応が高まることを明らかにしています。特にコミュニケーションの質を充実させるためには、ポジティブなコミュニケーションがより多くなされるように工夫することや、話したくなり話しやすいと感じられる環境づくり、不適切な会話場面における教師の適切な介入が重要であると結論付けています。

※ 教育資料等のお問い合わせについては、カリキュラムセンター（内線 33 番）までお願いします。